

平成二十五年度 第一回 SJAC講演会

「航空機用エンジン事業の歴史と今後」

(一社)日本航空宇宙工業会は、去る4月9日(火)、「ゆうぼうと五反田」にて平成二十五年度 第一回 SJAC講演会を開催したのでその概要を報告する。当日は用意した会場が満席となる100名ほどの参加者で盛況であった。

革新航空機技術開発センターでは新たな取り組みの一環として、民間航空機の誕生(企画・設計)から始まるライフサイクルに従い、我が国航空産業で長年の経験を持つ有識者(OB等を含む)の皆さんによる一連の講演会を行ってきている。ボーイング民間機およびV2500などのエンジン等の国際共同開発における貴重な経験を、将来の航空産業界の人財育成及び今後の研究・開発に生かすことを目的に、第三回目として株式会社 IHI 顧問 渡辺康之様に講演をお願いした。

渡辺様は、昭和46年に石川島播磨重工業(株)に入社され、F3 Engine (T4)、FJR Engine (飛鳥)、RJ500 (日英共同開発、後にV2500に発展)などのエンジンの制御技術を担当された。

平成8年からXF-7(P-1)およびXF-5(実証機)のプロジェクトマネジャー、そして平成12年からは民間航空機用のV2500およびCF34のプロジェクトマネジャーを務められた。平成20

年にIHI副社長に就任、平成21年からは一般財団法人 日本航空機エンジン協会理事長を兼務、平成23年6月からはそれぞれの顧問となっている。

講演は、戦前の「ネ20」ターボジェットエンジンから始まる国産ジェットエンジンの開発の歴史をたどりながら、航空エンジン技術や事業の特徴をたくさんの資料を丁寧に説明され、航空機用エンジンは「高性能」、「対環境性」、「高信頼性」、「高付加価値化」を追及して技術先進国5カ国*がしのぎを削っている…挑戦あふれる技術・事業分野と締めくくられた。

*アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、日本

講演終了後の懇親会においても活発な意見交換が行われた。

なお、講演の資料はSJACホームページにてご覧いただけます。

